

CONTENTS

● 第14回NAMMMビジネスツアー	1~4
● MIDI検定試験結果報告	5
● 著作権・ソフト委員会からの報告	6
● CDC報告/公益法人制度改革について	7
● AMEI会員名簿・第15回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8

第14回NAMMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年は2011年1月13日から1月16日の開催期間で、2011NAMM SHOWが米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターで開催されました。NAMMの発表では、今回の入場者は、90,114人と前年に引き続きさらに3%の増(ちなみに昨年は87,569人)とこれまでの最高入場者数(2008年の88,128人)を上回り過去最大となりました。海外からの入場者(登録数)も前年より3%増となり、10,400人を記録しました。

出展社についても、一昨年の1,505社を上回る事はなかったものの、1,417社と、昨年に比べ3%増え、昨年にも増して活気あるNAMMショーとなりました。出展社も地元アメリカ勢が増え、iPod/iPad関連ソフトのガレージメーカー等、かつてのアメリカの展示会の雰囲気、少しずつではあるものの、戻ってきているという印象を感じさせてくれたショーとなりました。

MIDI規格委員会主催の第14回NAMMMビジネスツアーもNAMMショー 及び MMA総会の日程に合わせ、1月12日出発～1月18日帰国のスケジュールで、7名の参加協力を得て実施されました。

NAMMビジネスツアー

AMEI独自で実施する3回目のNAMMビジネスツアーですが、今年も参加メンバーは、初めてNAMMに参加する方やアメリカでの新製品発表のスタッフとして参加される方、MMA総会でのプレゼン等ミーティング準備に忙しいMIDI規格委員会のメンバーと、目的もスケジュールも各人によって異なるツアーではありますが、参加メンバーは各自搭乗手続きを済ませ、成田空港第1ターミナル南ウィングにあるレストランビオンにて出発前のミーティングで自己紹介や行動予定の確認をおこない、恒例の記念撮影の後、DL284便は1月12日PM6時00分、夕日に染まる成田空港を飛び立ちました。



成田空港にて 2011NAMMツアー結団式



ギターセンター前のミュージシャンの手形

1月12日午前8時40分、定刻にロサンゼルス空港に到着したものの、通関も手荷物検査も去年以上の大変な行列で、通関でのトラブルもありチャーターしたバスに乗り込んだのは約3時間経過後のことでした。ロサンゼルス空港を出発するのが遅くなった為、昼食を兼ねてファーマーズ・マーケットへ、ここは1934年のアメリカ大恐慌時代に農民たちが始めた市場で、現在は八百屋さん、フードコート、おみやげ屋さんなど165店以上がはいつてあるマーケットです。フードコートでは人種のルツボ・ロサンゼルスらしく、いろいろな国の料理が味わえます。食事後30分ほど散策して、ハリウッドハイランドから車で5分程度のところにあるギターセンターへ。ギターセンター前のロックウォークにて有名ミュージシャンの手形を見学。このギターセンターは、1959年に小型家電やホームオルガンの店としてスタートし、現在では米国最大手の楽器小売チェーンとなっていて、このロサンゼルスギターセンターは日本の楽器メーカーもアメリカでの市場調査や新製品の売れ行き等の定点観測のポイントとなっています。そして、ギターセンターで手形を見た後は、チャイニーズシアター前のウォーク・オブ・フェイムと呼ばれる歩道にあるハリウッドスターの足跡・星型のプレートやアカデミー賞のレッドカーペットで有名なコダックシアターを見学。こちらは観光の定番になっているので、多くの日本人観光客も見受けられました。



ファーマーズ・マーケット



チャイニーズシアター前の足跡

AMEI NAMM ツアーに参加して1

(ヤマハ株式会社 研究開発センター 松岡 潤弥)

上司からNAMM Showに行ってみないかと提案を受けたとき、楽器に疎い私は“NAMMって何ですか？”という状態でした。私はこれまであまり楽器と関係ない仕事をしていましたが半年程前からギター関連の仕事に携わるようになり、関連知識の乏しいまま仕事をしている自分に勉強のチャンスを与えようと気を遣ってくれたようでした。そのような経緯でもわからずにAMEI NAMMツアーに参加させて頂くこととなりましたが周りの人にはいいなあ、とずいぶん羨ましがられました。

実際に会場に足を運ぶと、NAMMを初めて見た人は皆思うと思いますが規模がデカイ、人が多い、熱気が凄い！と圧倒されました。音楽を愛する人の情熱は素晴らしいと実感した光景でした。

私は自分の仕事で関係するギターメーカーに注目して見回ろうと考えていたのですが…ギターメーカーだけで何社あるんだろう？とても全部把握することは不可能でした。主要メーカーのブースは各メーカー独特の雰囲気があり、Martinは正統派、Gibsonは歴史と先進性の両方を押し出している等、ブースを見ることでメーカーの思想や方向性が垣間見られた気がしました。小さなメーカーや新興メーカーも無数にありましたが、これまで自分がよく見てきた機械、部品関係の展示会であればそのような企業は独自技術を全面的に出し大手メーカーとの差別化を図るケースが多かったのですが、ギターの展示ではそういった所はあまり無く、自社製品を並べて展示しているだけという所が大半でした。それで展示する意味があるのかなと初めは思っていたのですが各ブースで熱心に試奏していたり商談らしき風景も多々見られ、お祭りのような展示会の中にもNAMMのMerchantsの部分を確認に感じられました。

会場を見回るに当たって、主催者からスマートフォン向けにNAMM Show専用アプリが提供されており、これはMAPや展示一覧があるのみならず、個人のスケジュールにイベントの予定を入れ込んだり訪問済みブースのチェックができたりと大変便利なものでした。この形式のアプリは同時期に開催されていたCES（ラスベガスで開催の国際家電ショー）等でも提供されておりアメリカではこの手法が広まっているようです。日本の主要な展示会では同様のアプリはまだ無いようで日本はやはり保守的なのだろうか？など要らぬ心配をしてしまいました。

ツアーでは成田空港からNAMMの入場、及び帰国まで全て手配して下さったおかげでショーの見学に力を集中することができとても有り難く思いました。また到着初日にはハリウッドやギターセンターの見学などロサンゼルス観光も体験させて頂き、貴重な機会に一石二鳥の体験をさせて頂きました。今回のショーでは日本のメーカーは昔からある企業は多数参加していましたが、小さな企業やベンチャーの展示に関してはアジア系では中国、韓国、台湾の企業が目立ち、日本の企業は1社しか見あたりませんでした。また、見学者の方もアジア系の人がブースで熱心に質問している姿も多くみられました。これらの国に負けないためにもこのような企業の枠を超えたツアーが続けられ、日本勢として業界を盛り上げることの意義は大きいと感じました。

MIDI規格の国際標準化に関するAMEI/MMA会議報告

MIDI規格委員会副委員長 河口 幸裕

◆MIDI規格の国際標準化

昨年よりAMEIではMIDI規格のIEC国際標準規格化に向けた検討を進めています。MIDI規格は長い年月をかけて発展し、今や世界中で電子楽器のみならず様々なマルチメディア機器の上でサポートされている優良なデファクトスタンダードです。一方で、世界経済は市場拡大と開発製造の両面において新興諸国の成長ポテンシャルに大きく依存せざるを得ない状況にあり、楽器業界においてもこれまで以上に多様な開発競争が予見されます。そうした中でMIDIはそのビジネス基盤をより強固なものとし、引き続き世界中のユーザーに良質な便宜をお届けできるよう安定した発展を続けていく必要があります。国際標準化はその安定化に大きな効力を持つと考えられます。

今回、MMAの役員および会員企業の皆さんにそうした国際標準化の意義を伝え、共同で検討を進める事への賛同を得る目的でミーティングやプレゼンテーションが行なわれました。



MMA、AMEIの両トップによるミーティング

◆MMAとのトップミーティング

MMA総会に先立つ1月13日、NAMMショー会場に隣接するマリオットホテルの一室でMMA、AMEIの両トップによるミーティングが行われました。MMAからはTom White会長はじめ各ボードメンバー、AMEIからは岡部会長、



MMA総会でのプレゼンテーション

近藤副会長、飛河MIDI規格委員長他の顔ぶれ。冒頭の岡部会長の主旨説明に引き続き、序盤から白熱した議論が展開されました。MIDI規格が将来抱える可能性のあるリスクは何か、国際標準化はそれに対し有効な手段となり得るか。各人のMIDIに対する思い入れと責任感がひしひしと感じられる熱いミーティングとなり、その場では3日後のMMA総会においてAMEIから国際標準化提案に関するプレゼンテーションを行うことで同意されました。

◆MMA総会でのプレゼンテーション

トップミーティングの議論を受け、あらかじめ用意してきたプレゼンテーション資料の仕上げを行ってMMA総会に備えました。仕上げにあたっては、AMEIの皆さんのみならずTom White会長や参加企業の現地スタッフの方々にも多大なご協力をいただきました。

さて、総会当日の1月16日はNAMMショーの最終日でもあります。会場のマリオットホテルのボールルームに入ると、隣室に用意された朝食のテーブルを囲んでメンバーの皆さんがそれぞれに談笑しています。NAMMは巨大なトレードショーであると同時に、ライバル関係にある業界の皆さんが旧交を暖める場でもあると感じられるひとときです。

総会はリラックスした雰囲気の中でTom White会長の演説からスタート。昨秋に会長自ら参加したIECシアトル会議の報告をはじめ、様々な面でMIDIワールドの着実な進化が続いている事を印象付ける内容でした。

そしていよいよ我々のプレゼンテーション。飛河委員長による主旨説明に続き、国際標準とは何か、その重要性、AMEI/MMA共同での検討開始、といった提案内容を説明しました。続いてTom White会長のはからいで、新興国の代表とも言える中国からMMA

AMEI NAMM ツアーに参加して2

(ヤマハ株式会社 研究開発センター 末永 司)

今回初めてNAMM Showを視察するにあたり、音楽電子事業協会様企画のNAMMツアーに参加させていただきました。

私にとって久々の海外出張で若干不安な面もあったのですが、成田空港での出発時の結団式から成田空港に戻ってくるまでコーディネートしてくださったおかげで、戸惑わずにツアーを終えることができました。

また、結団式では一緒にツアーに参加される他社の方ともお話をさせていただく機会があり、これまで何度もNAMMに参加されている方々に事前にお話を伺うことができたことで、ショーの視察もスムーズになったと思います。

ツアー全体としては、到着当日にギターセンターやハリウッドなどを回っていただき、アメリカの楽器屋さんの雰囲気を感じることができました。通常の出張として視察に来た場合にはなかなか立ち寄る機会も無かったと思いますので、貴重な体験でした。

NAMM Show自体の視察に関しては、初めての視察ということで、衝撃の連続でした。日本の楽器フェアと比べるとショー自体が大規模であることはもちろんですが、出展するメーカーにとって商談をまとめる大きな機会だということが、明確にわかりました。

メーカーによっては新商品のみを徹底して展示、デモンストレーションを行い、デモスペースよりも広い商談スペースを確保しているところもあったり、自社製品をカタログ的に数多く展示していたりと、このショーに対する各メーカーの姿勢の違いが伺えました。

出展されている製品としては、iPod、iPadに関わる製品の多さにも驚きました。各社が自社製品と関連するアプリケーションや、iPod、iPadをつなぐハードウェアを展示していましたし、商談などでも利用されているようでした。こういった新しいツールに素早く対応してくスピード感が今後一層重要になってくると実感しました。一方で伝統的な楽器の分野も負けず劣らず活気に満ちており、音楽や楽器が伝統と新しいイノベーションの両方を持ち合わせている不思議な分野であることを感じました。

また、各所で行われている演奏も圧巻でした。メインステージのような大きなステージで行われている演奏はもちろんですが、各ブースで行われている製品のデモンストレーションでも素晴らしいパフォーマンスを聞かせてくれ、視察であることを忘れ、音楽を純粋に楽しんでしまうような瞬間もありました。

今回ツアーに参加させていただいて心強いと感じたのが、ショー視察の最中に、ツアーの参加者と会場でお会いすると、「あのブース見た? 面白かったよ。」などと声をかけてくださり、一人ではすべてを網羅して見ることは難しい中で、効率よく会場を見てまわることができた点です。

初めて行く人間にとっては非常にありがたい企画で、是非今後も続けていただければと思います。

参加させていただきありがとうございました。

に参加している中音公司（Central Music Co.）のZhao Yitian社長より、MIDI規格をビジネス基盤として尊重する彼らの立場について説明いただきました。

プレゼンテーションを終えて多くの方々から声をかけていただきましたが、多くはAMEIの問題意識を知ることができて有益だったというものでした。一方で、民間主導のデファクトスタンダードで今日を築いた米国らしい価値観を垣間見る点もあり、今後新興国を巻き込んだMIDIの一層のグローバル展開の上で、AMEIとMMAの協調がますます重要になるという実感を持つことができました。最後に、今後の作業にあたり関係各位のご協力をいただけますようこの場を借りてお願い申し上げます。

尚、MMA総会において上記報告以外に、MIDI Visual Control/ISMC/MMI qwertyのRP化についての報告、HDプロトコル・Ethernet AVB Update・MIDI at CES/MIDI at NAMM活動報告・MIDI Electrical Spec（3.3V対応）等についてTomWhite会長及びTechnical Board Membersよりそれぞれ報告がありました。

MIDI VISUAL CONTROL規格を発表

NAMMショー前日の12日夜に、ローランドブースで開かれたプレスカンファレンスにてMIDI Visual Controlについての発表がありました。

このMIDI Visual Controlは、2008年のNAMMにて行われたV-LINKカンファレンスからスタートし、AMEI /MMAにて協議を繰り返してきましたが、本年、2011NAMM Showにて、MIDI規格のRP（推奨規格）としてAMEI/MMA双方の承認を得、発表する運びとなりました。



MMA：Tom White会長のスピーチ
(写真提供：(株)ミュージックトレード様)



ローランド：田中社長のスピーチ
(写真提供：(株)ミュージックトレード様)

「MIDI Visual Control」とは、電子楽器で映像をコントロールするため、MIDI規格に追加された世界共通の推奨規格です。

今日、ステージにおける演奏では、その演奏効果を高めるためステージの背面や側面に大型スクリーンを設けて映像を映し出しています。この映像には演奏者のアップなどのほか、演出のために、風景、人物、コンピューター・グラフィック（CG）など、様々な映像が使用されており、今や音楽演奏において映像との組み合わせはなくてはならないものとなっています。一方、このような映像の切り替えには通常専任のオペレーターが必要で、演奏者自身で行うことはありませんでした。しかし、さらなる表現の可能性を求め、演奏者は自ら映像をコントロールしたいという要望を強く持っています。また、自らが演奏する電子楽器をこのコントロールに使用できれば、映像を楽器演奏と一緒に取り扱えるようになり、演奏表現の可能性は大きく広がります。

これを実現するため、Roland社の「V-LINK」コンセプトを基にAMEIとMMAで協議し、多くのメーカーが参加しやすいよう「MIDI Visual Control」という名称でMIDI推奨規格（Recommended Practice）としました。

「MIDI Visual Control」により、対応した映像機器と電子楽器をMIDIケーブルで接続する事で、電子楽器から、映像の切り替え、映像への効果付与、再生速度の制御などを行うことができますようになります。演奏者が曲を変更する場合でも、映像のオペレーターに変更を依頼することなく、曲にあわせて映像も自由な感覚で即興的にコントロールすることができます。映像専任のオペレーターが必要ないため、アマチュアの演奏者にとっても、より身近に映像表現を自分の演奏に取り込むことが可能になります。

今回のMIDI 推奨規格化を受け、ローランド社は、NAMMショーの前日の1月12日、全世界のプレス約100名を対象に、「MIDI Visual Control」の記者発表を行いました。MMAのTom White会長、ローランドの田中社長らが主旨を説明し、また映像と電子楽器の実演デモも行われ、MIDIの可能性をアピールしました。

最後に、音楽と映像の融合はもはや当然のこととなっていますが、演奏者自身が演奏に合わせて映像をコントロールすることは今始まったばかりです。今後、演奏表現の新しい可能性を求めて「MIDI Visual Control」を使用される演奏者の方々が、新たな音楽と映像の融合表現手法を確立して頂けることを期待したいと思います。



MIDI VISUAL CONTROL

[MIDI VISUAL CONTROL ロゴ]

MIDI検定試験実施結果報告

主催：社団法人音楽電子事業協会 協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会

平成22年12月4日（日）に全国34会場にて「第13回MIDI検定3級」「第12回MIDI検定2級1次（筆記）」試験を実施しました。また同日、同一試験問題にて中華人民共和国におきましても「第7回MIDI検定試験3級」が5会場にて実施されました。

MIDI検定2級2次（実技）試験は、平成23年2月19/20日の両日は東京会場、2月26/27日は大阪会場にてWindows及びMacにより実施いたしました。また今回で2回目となる「MIDI検定1級試験」は、平成23年1月14日～1月24日を課題曲の制作期間として、実施されました。



全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI検定3級及び2級1次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

[北海道・東北エリア]

ヤマハミュージック北海道研修センター・札幌琴似工業高等学校・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校

[関東エリア]

代官山音楽院・日本工学院専門学校・学校法人岩崎学園 横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・学校法人杉山学園 専門学校横浜ミュージックスクール・芸能花伝舎1F創造スペース・ヤマハエレクトーンシティ渋谷・アーツカレッジヨコハマ・東京工科大学・東京スクールオブミュージック専門学校渋谷・日本工学院八王子専門学校・日本電子専門学校・音楽学校 メーカー・ハウス・専門学校東京ビジュアルアーツ

[中部・近畿エリア]

学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ 専門学校・JEUGIA 京都音楽院・コンピューターミュージッククラブ Dee・甲陽音楽学院・専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・名古屋文理大学・学校法人ビジュアルアーツ専門学校大阪・金沢科学技術専門学校・リュウケイ ミュージック ネット

[中国・四国・九州エリア]

学校法人河原学園 愛媛電子ビジネス専門学校・専門学校九州ビジュアルアーツ・原田学園 デジタルアーツ専門学校・Oita Sound Creator 協会・広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・くらしき作陽大学・久留米コンピュータ・カレッジ

MIDI 検定試験結果の推移（国内）

級	内 容	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	累計
3 級 試験	実 施 日	第 7 回 H16.12.5	第 8 回 H17.12.4	第 9 回 H18.12.3	第 10 回 H19.12.2	第 11 回 H20.12.7	第 12 回 H21.12.6	第 13 回 H22.12.5	
	受験者数	1742	1469	1275	1051	930	797	760	21715
	(内学校)	917	715	659	526	512	439	385	10797
	合格者数	1233	1056	731	729	627	504	465	15050
	合 格 率	70.78%	71.89%	57.33%	69.36%	67.42%	63.24%	61.18%	69.31%
2 級 1 次 試験	実 施 日	第 6 回 H16.12.5	第 7 回 H17.12.4	第 8 回 H18.12.3	第 9 回 H19.12.2	第 10 回 H20.12.7	第 11 回 H21.12.6	第 12 回 H22.12.5	
	受験者数	404	429	308	247	265	172	150	4996
	合格者数	108	189	187	162	187	87	79	2399
	合 格 率	26.73%	44.06%	60.71%	65.59%	70.57%	50.58%	52.67%	48.02%
2 級 2 次 試験	実 施 日	第 6 回 H17.2.11	第 7 回 H18.2.11	第 8 回 H19.2.11	第 9 回 H20.2.16	第 10 回 H21.2.14	第 11 回 H22.2.20	第 12 回 H23.2.19	
	受験者数	234	211	202	173	165	99	76	2965
	合格者数	97	66	74	135	109	77	48	1026
	合 格 率	41.45%	31.28%	36.63%	78.03%	66.06%	77.78%	63.16%	34.60%
1 級 試験	実 施 日						第 1 回 2010 1/15～25	第 2 回 2011 1/14～24	
	受験者数						153	76	229
	合格者数						43	17	60
	合 格 率						28.10%	22.37%	26.20%
国内受験者合計		2380	2109	1785	1471	1360	1221	1062	29905

中国 MIDI 検定 3 級試験の推移

級	内 容	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	累計
3 級 試験	実 施 日	第 1 回 H16.12.5	第 2 回 H17.12.4	第 3 回 H18.12.3	第 4 回 H19.12.2	第 5 回 H20.12.7	第 6 回 H21.12.6	第 7 回 H22.12.5	
	試験会場	北京 蘭州 温州 鄭州 天津	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 青島	北京 瀋陽 杭州 無錫 成都	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島	北京 上海 南京 杭州 広西	
	(全国 5 会場)		(全国 7 会場)	(全国 8 会場)	(全国 5 会場)	(全国 7 会場)	(全国 7 会場)	(全国 5 会場)	
	受験者数	112	252	144	128	119	103	177	1035
	合格者数	87	223	129	123	94	89	103	848
	合 格 率	77.68%	88.49%	89.58%	96.09%	78.99%	86.41%	58.19%	81.93%

著作権・ソフト委員会関連活動22年度サマリー

(平成22年度の活動を振り返って)

著作権・ソフト委員会 委員長 戸叶 司武郎

平成23年4月から、JRCとイーライセンスが管理事業を開始して10年目に入りました。音楽コンテンツビジネスに多様な課題と波紋をひき起こした著作権等管理事業法が平成12（2000）年に公布されて満10年、節目の年となった昨22年度は著作権・ソフト委員会の各部会が例年に増して積極的な活動ができましたので、主要な成果をご報告致します。

<委員会として>

年間10回の定例会には毎回30名から40名の会員に参加戴き、一体感を持った活動を展開することができました。昨（2010）年7月29日にNMRC主要構成団体であるAMEI、MCF、ACCSの三団体にて文化庁を訪問し「著作権等管理事業法」の改正を求める請願書を提出しました。同法関連案件として、新規参入管理事業者の「日本音楽ソフト作詞作曲家協会」と使用料規程について事前協議（音楽配信＆カラオケ部会）し、業務用通信カラオケは同協会の管理委託分野ではないことが明確になりました。

委員会運営に関しては、新規に委員会直轄でアーカイブワーキンググループ（以下「ACV-WG」）と、トレードマークワーキンググループ（以下「TM-WG」）を設置しました。10月に新設したACV-WGは株式会社エムティーアイ（MTI）の高橋氏にWGリーダーをお願いし、過去に著作権管理事業者とどのような協議をしてきたか、記録と当時関係者へのインタビューを通じて収集・整理体系化していきます。当時の権利事情やビジネスやインフラ環境との関連性も記録し、これからの協議に役立てるとともに次の世代に歴史を引き継ぐことがメインテーマです。

TM-WGはMIDI規格委員会との連携で商標「MIDI」を今後どう管理していくか、日本以外、特に中国における知財戦略を考えてアクションを起こす為のWGです。約一年間の連携が経過し、今年度よりMIDI規格委員会に帰属して活動を継続します。

組織面では音楽配信部会長の千葉氏がMTIよりCDC（一般社団法人著作権情報集中処理機構）へ10月に移籍（NMRCボードメンバーは継続）されたため部会にはオブザーバー参加となり、堀江氏（株式会社エクシング）が引き継ぎました。またソフト規格部会長は宮間氏（株式会社コルグ）の退職に伴い今年度4月中旬より三澤氏（ヤマハ株式会社）が引き継ぎます。早稲田大学創造理工学部におけるAMEI著作権提携講座は2月に学科試験が終了し、約30名が単位を取得しました。今年の秋から4回目の講義を開催予定です。

<カラオケ部会>

前述の「著作権等管理事業法」改正請願書の提出では中心となって作成にあたりました。文化庁訪問の際には川瀬室長以下、著作物流通推進室職員との意見交換もおこない、指定されていない管理事業者の努力部分の義務化、登録時の管理体制の強化、その他管理事業者に対しての裁定制度設置を要望してきました。今年3月24日には同庁主催のシンポジウム「著作権等管理事業法施行10年を振り返る」にて問題点を深く議論する予定でしたが、残念ながら東日本大震災にともない中止となりました。さらにJASRACとの「業務用通信カラオケ使用料規程」改定についての協議や、著作隣接権の検討など年間21回の会議を実施し、「カラオケコンテンツの無許諾配信行為等について」の文書をAMEIのHPに掲載しました。

<音楽配信部会>

音楽配信部会はNMRCの活動を通じて権利者との協議を計34回実施し、つぎの成果を得ました。

①最低使用料の取り扱いについてJASRAC、イーライセンスと暫定合意しました。この合意を踏まえてJRCとは今年度より協議を開始します。

②歌詞後付けサブスクリプションサービスの取り扱いについてJASRAC、JRC、イーライセンスと暫定合意しました。これはソニー社製ウォークマンを購入する若年層ユーザーに、歌詞を適法に取得させる為に利用者と管理事業者双方が意図をこめて暫定合意したもので、インターネットで歌詞を無料入手する違法なポータブルオーディオプレーヤーを持つユーザーに対して一石を投じるものです。

③大規模ストリーム配信サイトの使用料按分協議は、2008年4月からの24ヶ月分についてJRC、イーライセンス、ダイキサウンドと暫定合意しました。会員各位には左記3社にNMRC所定の届出書を用いて過去分の報告を5月中にお願いする予定です。本年6月には合意対象期間の使用料精算実務の完了を目指します。なお、2010年4月以降の使用料按分協議は、CDCを活用して合意案を作成することを各管理事業者と約束しています。

④2四半期を超える遡及徴収の取り扱いについてイーライセンスに協議を申し入れ、今年度も協議を継続します。またJASRACは遡及徴収期間の上限を原則2四半期までとする方針で調整中です。

⑤JRCと使用料規程改定について、1月より協議を開始し今年度も継続します。

⑥NMRC拡大実務WGを通じて一般社団法人音楽出版社協会（MPA）と着うた用原盤ライセンスに関わる標準化を進め、「音楽配信契約書フォーマット」のA、Bそれぞれの版についてバージョンアップ（Ver.1.01）を実施致しました。詳細はMPAのホームページを御覧下さい。さらにメタデータ管理項目の見直しと、映像コンテンツ配信許諾契約書フォーマットの作成にも着手し、今年度も継続します。

音楽配信部会では年間を通じて30社近い会員企業の皆様から最低使用料の支払い実態分析や、大規模ストリーム配信サイトのリクエストログ分析など、貴重な情報のご提供と分析作業のご協力を賜り誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

<ソフト規格部会>

会員企業の保有する知的財産の保護活用を研究する機会として、「初音ミク現象から学ぼう」勉強会を2回開催しました。第一回目は講師にクリプトン・フューチャー・メディア株式会社（AMEI会員）の伊藤社長に講師をお願いし、60名の参加がありました。またサウンドフォント、企業の著作物利用と日本版フェアユースについても調査研究を重ねています。部会に帰属する「楽器内蔵コンテンツ等の保護に関するWG（GCP-WG）」では、ヤフオク等のオークションサイトでコンテンツやDTMアプリの海賊版販売や不正使用実態について情報共有し、悪質なケースには警告等を発信しました。同じく帰属する「Digital Music Notation WG（DMN-WG）」は、NMRCとの連携窓口として機能し、部会と両WGを併せて延べ8回のミーティングを実施しました。

※透かし推進プロジェクト、MIDI規格の国際標準化推進透かし推進プロジェクトはAMEI全体の横断的なプロジェクトとして約10年間活動してきました。1月のAMEI-MMA総会にて、ISMC規格のRP化が承認され、22年度末をもって発展的解消致しました。今年度から著作権・ソフト委員会傘下にDRM部会を設置し、AMEI標準MIDI電子透かしエンコーダーMIDIsignとISMC規格の管理を継承するとともに、スマートホンなどのDRMについて調査研究を開始致します。

MIDI規格の国際標準化推進については、MIDI規格委員会に協力しオブザーバーとして、シアトルにて開催されたIEC国際会議に参加しました。

以上、盛りだくさんの著作権・ソフト委員会ですが今年度も皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

「Fluzoの状況及び新メニューの追加について」

一般社団法人 著作権情報集中処理機構 千葉 浩

(1) Fluzoの運用状況及び実績

一般社団法人著作権情報集中処理機構(CDC)は、著作権管理事業者への利用曲目報告データ作成支援システム「Fluzo」(フルゾ)を構築し、昨年4月より音楽配信事業者様向けにサービスを提供しております。サービス開始以来、利用曲目報告の3回目の節目となる本年1月の処理においては、昨年7月の処理件数の2.5倍にあたる約4,000万行のレポートを処理し、音楽配信に係る著作権処理の効率化への取組みは着実にその成果を挙げております。

この間、ご利用の音楽配信事業者様の数もサービス開始当初の2倍となり、トライアル利用も累計で17社を数え、多くの音楽配信事業者様にFluzoの先進的な機能及びその効果をご体験いただいております。利用者様からは、利用曲目報告の負担が軽減された、業務の平準化が図られ作業計画が立て易くなった等導入に対する評価を頂戴しております。また、この4月には、JASRACへの利用曲目報告データをFluzoから直接受け渡す「直送機能」も実装し、報告作業の更なる効率化が期待できます。

(2) 検索メニューの追加とトライアル利用のWeb申込み

Fluzoの主要な機能として、楽曲の権利関係を特定する「権利問合せ機能(検索機能)」と利用曲目報告データを作成する「報告機能」が挙げられます。Fluzoは両機能の密接な連繋により効率的な著作権処理を実現しているところ、従来は、この2つの機能を一体として提供して参りました。しかしその一方で、差し当たり、各著作権管理事業者の権利管理情報を統合したFluzoの統合データベースだけでも利用したいとのご要望も多方面から寄せられております。

CDCでは、こうしたご要望にお応えするため、この度「権利問合せ機能」のみ提供するサービスを新たなメニューとして追加することといたしました。Fluzo統合データベースの検索機能に特化したこの新メニューでは、次のサービスをご利用いただけます。

- ①フィンガープリントを用いた、音源から直接検索(新規登録も可能)
- ②メタ情報によるテキスト検索
- ③CDC-ID一括検索による権利管理情報の取得

新メニューでは、フィンガープリント検索やテキスト検索によりCDC-IDを取得し、CDC-IDを用いて統合データベースの一括検索等

を行うことで権利管理情報を取得することが出来ます。権利管理情報からは、楽曲の権利関係が把握できるのみならず、各著作権管理事業者の作品コードも取得できるため、それらを利用して自社の報告業務の効率化を図ることが可能となります。

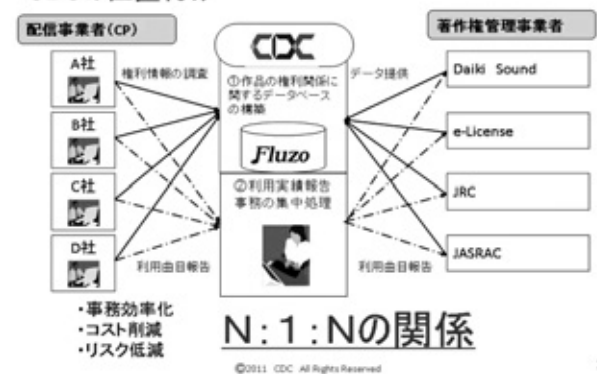
新メニューの料金体系には、フィンガープリント検索回数の多寡に応じた従量課金を採用し、報告機能を必要としない事業者様でもご利用し易い利用料を設定しております。これにより、より広範な皆様方に、Fluzoをご活用いただけるものと考えております。

また、従来、書面にてご案内しておりましたFluzoの無料トライアル利用につきまして、CDCのウェブサイトからもお申込みいただけるようになりました。お申込み条件などの詳細は、CDCのHP(<http://cdc.or.jp>)のFluzo無料トライアル(http://cdc.or.jp/fluzotrial/fluzo_trial_1.html)をご参照いただければ幸いです。新メニューと合わせて、Fluzo導入のご検討に際してご活用いただければと思います。

新メニューや無料トライアルを含めましてFluzoに関する事項は、CDC(Tel: 03-3262-2601, Fax: 03-3262-2602, E-mail: info@cdc.or.jp)までお気軽にお問い合わせください。

CDCは、今後とも著作権処理の円滑化により音楽配信の促進に寄与する所存ですので、AMEI会員の皆様方には引き続きCDCの活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

CDCの位置付け



公益法人制度改革への対応について

一般社団法人への移行に向けての平成22年度の活動 及び今後の計画について報告

公益法人制度改革への対応について、当協会は平成22年度第14回の通常総会におきまして、一般社団法人への移行を目指すことで方向性の決議をしました。

一般社団法人への移行に向けての平成22年度の活動及び今後の計画について報告します。

運営委員会に設けられた第1回公益法人制度改革対応WGを平成22年9月27日に開催し、移行に向けての研究を行いました。その結果、移行申請までの課題としては1. 定款変更(案)の作成 2. 公益目的支出計画の作成 が明確になりました。

第2回公益法人制度改革対応WG(平成22年11月9日開催)では、事務局作成の定款変更(案)をたたき台に意見交換を行いました。特に、新制度におきましては理事会の位置づけが、従来とは違うものになりますので集中的な討議が行われました。

この結果を受けて事務局は11月17日に内閣府公益認定委員会を訪問、定款変更案及び公益目的事業についての相談をし、助

言を受けました。

以上の結果を12月2日の三役会にて報告をし、平成23年3月16日の平成22年度第2回理事会に定款変更案を諮り、5月11日の第15回AMEI通常総会に付議されることになりました。

今後につきましては、第15回通常総会におきまして、定款変更案を諮り承認を得られますと、移行認可の申請を行うことになります。

行政府の審査を受け、移行認可通知を受けますと通知後2週間以内に一般社団法人の設立及び特例法人の解散登記を行い、行政府及び経済産業省への届出、旧法人の事業年度の終結と計算書類を作成し、公益目的財産額の確定手続き等をおこないます。

今年度は、移行のための手続きに多大なエネルギーを必要としますが会員の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震により被災された方々に、
心よりお見舞い申し上げます。
被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2011年4月22日現在

あ	● 学校法人尚美学園	ふ
● アイデックス音楽総研株式会社	● 株式会社シンクパワー	● 株式会社フェイス
● アップルジャパン株式会社	す	● 株式会社フェイス・ワンダワークス
い	● 株式会社ズーム	● フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
● 株式会社インターネット	● 株式会社鈴木楽器製作所	● 株式会社フュートレック
● インフォコム株式会社	● 株式会社スリック	へ
え	● 株式会社スマートイーブック・ドット・コム	● ベスタクス株式会社
● 株式会社エクシング	せ	み
● 株式会社エムティーアイ	● セイコーインスツル株式会社	● ミュージックノート株式会社
● 株式会社エンターブレイン	● 株式会社セガ	や
お	た	● ヤマハ株式会社
● 株式会社音響総合研究所	● 株式会社第一興商	● 財団法人ヤマハ音楽振興会
か	● 株式会社タムラ製作所	● ヤマハミュージックトレーディング株式会社
● カシオ計算機株式会社	て	● 株式会社ヤマハミュージックメディア
● 株式会社河合楽器製作所	● ティアック株式会社	ら
き	● 株式会社ディーアンドエムホールディングス プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー	● 株式会社ラグナヒルズ
● 株式会社キューブ	と	り
く	● 東映ビデオ株式会社	● 株式会社リットーミュージック
● クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	● 株式会社ドワンゴ	● 株式会社リムショット
● クリムゾンテクノロジー株式会社	に	ろ
こ	● 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・ 日本工学院八王子専門学校	● ローランド株式会社
● 株式会社コルグ	● 日本シンセサイザープログラマー協会	〈正会員会社52社〉
さ	は	* 賛助会員
● 株式会社サイバード	● パイオニア株式会社	● 中音公司 (中華人民共和国)
● 株式会社サミーネットワークス	● 株式会社ハドソン	● 株式会社博秀工芸
し	● パナソニック モバイル コミュニケーションズ 株式会社	● 株式会社ミュージックトレード社
● 株式会社シーミュージック		〈賛助会員会社3社〉
● JVCネットワークス株式会社		
● 島村楽器株式会社		

社団法人音楽電子事業協会

第15回通常総会と懇親会開催のお知らせ

日 時：平成23年5月11日 (水) 午後4時～

場 所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階「万里」

◇平成22年度 事業報告 収支決算報告

◇平成23年度 事業計画(案) 収支予算(案)

◇役員(理事)交代の件 ◇公益法人制度改革対応について(定款変更(案))

通常総会懇親会：ホテルメトロポリタンエドモント 3階「春琴」 午後6時～
(多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております)

AMEI NEWS Vol.44 / 2011.4.22

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発 行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：岩崎修三

編集人：石黒士郎 (広報委員会)

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>